

## コンニャク培土同時複合作業機の開発

### 研究のねらい

県西部地区のコンニャク栽培は、従来植え付け前と培土時に分けて施肥する方法が一般的でした。経営規模拡大に伴い培土時施肥を省略して植え付け前に全量を基肥として施す栽培が増加しつつあります。一方、生育後半の肥大性が高い「みやままさり」への品種更新が進んでいることや豪雨などによる肥料の流亡から、全量基肥体系では減産となる事例があります。加えて、培土の時期は肥料・薬剤の散布や間作麦播種の作業が重なっています。

そこで、乗用機械により培土、肥料散布、薬剤散布および麦播種作業を同時工程で省力的に行える作業機を開発しました。

### 技術の特徴

- 1 開発した培土同時複合作業機は、培土機、肥料散布機、薬剤散布機および麦播種機から構成され、畑作管理用のハイクリアランスストラクタに装着しました。ハイクリアランスストラクタは、細幅のタイヤのため植え

付け後の畦間に乗り入れでき、最低地上高が高いため出芽した芽を傷つけません。左右の車輪間と培土機の条間は畦間に合わせて調整できます。

- 2 肥料と薬剤を畦上に散布した直後に培土を行い、同時に麦を畦間に播種することができます。2条寄せ畦の栽植様式に対応し、1工程で2畦分の作業ができます。
- 3 各散布機の散布量は、運転席のコントロールで調整が可能で、ロール繰り出し方式のため繰り出し量はダイヤル目盛に比例し、高い精度で散布できます。各散布機のホッパに1回補給すると、10a以上の連続作業ができます。
- 4 歩行型機械を使う慣行作業と比べて、延べ作業時間を約7割低減できます。

### 今後の取り組み

平成30年度よりヤンマーアグリジャパン(株)から販売されています。今後は、デモ機の活用や研修会を開催して生産者への普及を図ります。(執筆者：田村 晃一)

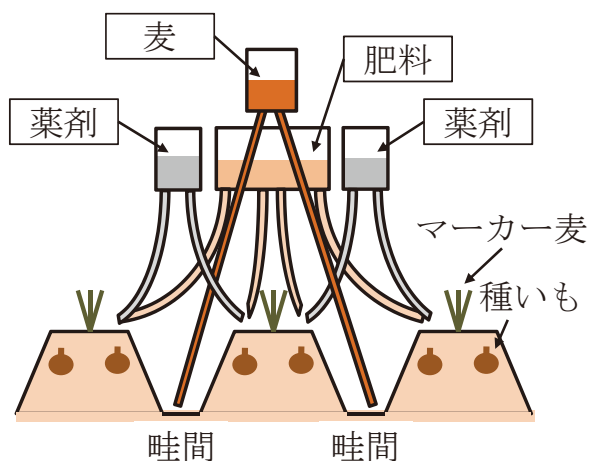


図 散布装置模式図



写真 培土同時複合作業機